

令和 7 年度 観光政策関連の新規・充実予算（産業観光局）**1 観光客による京都観光モラル宣言促進事業【5,000 千円】新規**

京都に来られる観光客に京都観光モラルへの理解を深めていただき、同モラルに賛同、実践することを宣言していただくことで、市民、観光客、観光事業者等が、対立ではなく、互いに尊重し合える関係を構築していく。また、観光客に SNS を活用した情報発信に協力いただき、これから京都観光に訪れる方へ、京都観光モラルの周知等を行う。

2 観光バスの路上滞留対策等強化事業【35,000 千円】充実

（全体事業費 42,000 千円のうち充実分）

(1) 観光バス駐車場の満空情報共有システムの構築

観光バス駐車場の効率的な利用促進等を図るため、市内観光バス駐車場の満空情報をリアルタイムで確認できるシステムを新たに構築のうえ、情報発信していく。

(2) 観光バス路上滞留に係る巡回調査

主要幹線道路はもとより、様々なエリアで路上滞留が散見されていることから、最新の観光バスの路上滞留状況を正確に把握するとともに、現地啓発を実施するエリア選定を行うため、市内全域を対象に観光バス路上滞留発生エリアの巡回調査を実施する。

(3) 路上滞留している観光バスへの現地啓発及び実態把握

これまで実施してきた路上滞留している観光バスに対する近隣駐車場への誘導や啓発文の配布、事業者名や滞留時間等の実態把握について、巡回調査の結果等を基に、啓発エリアを更に拡大し、より対策を強化して実施する。

(4) 観光バス路上滞留対策看板の保守管理

観光バス向けの啓発看板（路上滞留が発生している道路沿いに設置）のメンテナンスや整備等を行う。

3 手ぶら観光の推進【61,000 千円】 **充実**（全体事業費 72,200 千円のうち充実分）

(1) 京都駅構内におけるコインロッカー情報等の一元化発信

京都駅構内のコインロッカーの位置や満空情報のほか、手荷物の一時預かり・配送サービス窓口、市バス乗り場等の情報を一元的に発信するとともに、現在地から目的地までの徒歩経路検索も可能な京都駅構内のデジタルフロアマップ「京都駅版プラチナモール」を新たに導入する。

(2) 京都駅周辺の窓口を対象とした事前予約システムの導入

京都駅周辺の手荷物の一時預かり・配送サービス窓口への利用促進はもとより、各窓口での混雑緩和を図るため、新たに事前予約システムを導入する。

(3) 手ぶら観光サービスが安心安全であることの情報発信

とりわけ外国人観光客の手ぶら観光サービスに対する不安解消等を図るため、新たに当該サービスが安心安全であることの動画を制作のうえ、発信する。

(4) 大型手荷物を携行する観光客数等の調査

市バス車内に大型手荷物を携行する観光客数等の実態を把握するため、京都駅市バスのりばに、新たに A I カメラ等を設置する。

(5) 「HANDS FREE KYOTO」における情報発信

手ぶら観光情報 Web サイト「HANDS FREE KYOTO」における手荷物の一時預かり・配送サービス窓口の掲載事業者数を増やすとともに、デジタルサイネージ等で啓発を行う等、引き続き「HANDS FREE KYOTO」の周知等を実施する。

(6) 臨時手荷物配送・預かり所の設置・運営

秋・春の観光シーズンにおいて、京都駅に臨時手荷物配送・預かり所を設置し、手荷物の一時預かりサービス及び宿泊施設への配送サービスを実施する。

4 多様なエリアにおける魅力発信事業【63,500千円】 **充実**

(1) 「とっておきの京都」エリアのプロモーション

特設ウェブサイトでの情報発信に加えて、WEB広告やメディア等を活用した情報発信、各エリアの紹介動画の充実など、様々な手法を組み合わせたエリアプロモーションを展開する。

(2) 府市連携による周遊観光の促進

府市連携により、「川」をテーマにした観光コンテンツを造成するとともに、旅行事業者等へのファムツアーや、観光コンテンツの提供事業者に向けたワークショップ等を実施する。

また、府市の多様なエリアの魅力を活かした周遊観光ツアーの造成について、文化・芸術をはじめとした、京都の多彩な魅力を活かした朝・夜観光等コンテンツや、京都の新たな夜の価値創造につながるコンテンツの造成に取り組む。旅行事業者の主体的なツアー造成を定着させるため、プロモーションに係る費用の一部を助成する。

さらに、毎年冬の閑散期のキャンペーン事業として実施してきた「京都レストランスペシャル」を大阪・関西万博期間中に実施し、府市の食の魅力を一体的に発信する。

(3) 局所的な混雑が発生しているエリア内の集中緩和

嵯峨嵐山エリアの集中を緩和するため、デジタルマップを引き続き掲載し、春や秋の観光シーズンに合わせてスタンプラリーを実施することで、観光客の行動変容を促し、エリア内の分散化を定着させる。

5 分散化の推進と観光の満足度向上のための朝・夜観光等コンテンツ造成事業 【15,000千円】 **充実**（全体事業費31,000千円のうち充実分）

(1) 朝・夜観光等コンテンツ造成

文化・芸術をはじめとした、京都の多彩な魅力を活かした朝・夜観光等コンテンツや、京都の新たな夜の価値創造につながるコンテンツの造成に取り組む。

また、観光客に提供できる文化観光資源はあるが、ノウハウや人手不足等により実現できていない事業者に対し、伴走的なサポートを行うことで、コンテンツ造成を支援する。

(2) 府市連携による朝・夜観光の推進

府市の朝・夜観光コンテンツやイベント情報を特設ウェブサイトを集約し、一体的に発信するとともに、朝や夜の魅力を紹介する記事を充実させるなど、プロモーションを強化する。

6 修学旅行生誘致に向けた取組【12,500千円】

充実

(全体事業費 28,550 千円のうち充実分)

(1) SDGs 探求学習プログラム「Q都スタディトリップ」の運用

学習指導要領の改訂により学習ニーズの多様化が進む中、令和4年度から、京都の地域企業等の取組からSDGsをテーマにした探求学習を実践できる学習コンテンツとして、「Q都スタディトリップ」を運用している。

学習コンテンツとして更に魅力を高めるため、学校が求める学習テーマや関心のあるコンテンツについてのニーズ調査を行い、歴史・文化だけにとどまらず、今後のコンテンツ拡充の方向性を検討する。

(2) 修学旅行シーズンにおける混雑エリアへの交通誘導員の配置

清水寺は修学旅行生が最も多く訪れる見学先であり、その主なアクセス道路である五条坂は車両や人の往来が多く混雑が生じやすいことから、修学旅行生の安心・安全を確保するため、平成28年から修学旅行生の特に多い月、曜日に交通誘導員の配置を行っている。

観光客の増加に伴い、現状の配置日以外でも混雑により修学旅行のスムーズな進行に影響が生じている実態があることから、交通誘導員の配置日を増やす。

7 修学旅行体験学習支援事業【8,400千円】

充実

(全体事業費 13,400 千円のうち充実分)

文化や産業など京都ならではの奥深い魅力を感じることができる修学旅行生向け体験プランについて、対象期間の拡大や新たな体験メニューを追加することで、事業の充実を図る。

- ・対象：令和7年5月～令和8年3月に修学旅行で京都市内に1泊以上する修学旅行生
- ・内容：花街文化体験（舞妓による舞踊の鑑賞等）、伝統産業体験（伝統産業ミュージアムにおけるものづくり体験等）

8 京都の強みを活かしたM I C E誘致強化【61,500 千円】 **充実**

(全体事業費 79,500 千円のうち充実分)

(1) M I C E開催支援に係る助成金・補助金制度の充実

ア 京都らしいM I C E開催支援補助制度の対象拡大

京都で開催されるM I C Eにおいて、伝統産業製品を活用した記念品や、舞や茶道等の京都らしさの演出に係る経費に対して補助を行う「京都らしいM I C E開催支援補助制度」について、「ユニークベニユー活用」に係る経費補助を新たに設ける。これまでユニークベニユーを活用できなかった主催者による利用等を促進する。

- ・補助率（補助上限額）：1／2（1,000 千円）

イ 京都市M I C E開催支援助成金の加算

京都市M I C E開催支援助成金について、京都市内での開催実績があるM I C Eに対して助成額を加算することで、中長期的に安定してM I C Eが開催されることを目指すとともに、経済波及効果の確保につなげる。

- ・助成金加算上限額：400 千円

※京都市M I C E開催支援助成金の上限額は2,000 千円

ウ M I C E開催支援に係る助成金・補助金の採択件数の拡充

需要の高い「京都らしいM I C E開催支援補助制度」「京都市M I C E開催支援助成金」「大規模国際コンベンション誘致支援助成金」の採択件数を増やし、M I C E誘致力の向上を図る。

(2) M I C E実態調査の実施

市内で開催されるM I C Eの実態を把握することで、M I C E開催による経済効果等を見える化し、発信するとともに、今後のより効果的な施策立案につなげる。